

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	2-1-1		事業名	協働による冬期歩行環境の改善
担当	建設局土木部雪対策室計画課 田村 Tel211-2682			
全体計画				
事業内容	冬期の横断歩道や歩道では、つるつる路面によって毎年多くの人が転倒し救急搬送されている。このため、市民・企業・行政が協働により歩行環境の改善を図り、安全で快適な冬みちを目指す。		＜年度別の事業内容＞	
			平成19～22年度 (1)企業名入り砂箱の設置 (2)砂まき活動の実施 (3)自発的な砂まき活動の推進	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	(1)企業名入り砂箱の設置 事業内容:歩行者用砂箱の設置強化のため、民間協力による砂箱を設置 設置数:103基(新規は24基) (2)砂まきキャンペーンの実施 事業内容:市民に対して砂まきの協力を広く呼びかけるため、街頭啓発を実施するとともに、公共施設などに砂入りペットボトルを配置 【街頭啓発】 場所:都心部、各区主要地点 【砂入りペットボトル】 配置数:約15,000本 ・ 場所:区役所、各区土木センターなど (3)自発的な砂まき活動の推進 人通りの多い道路(場所)で営業するコンビニや商店街で砂まきを行うことで、市民の砂まき活動の啓発につながるから協力を依頼 【コンビニ】 協力数:750店舗 【商店街】 協力数:18商店街		(1)企業名入り砂箱の設置 事業内容:歩行者用砂箱の設置強化のため、民間協力による砂箱を設置 設置数:109基(新規は9基) (2)砂まき活動の実施 事業内容:市民や庁内部局に対して砂まきの協力を呼びかける。また、公共施設などに砂入りペットボトルを配置 【砂入りペットボトル】 配置数:約20,000本 場所:区役所、区土木センターなど 【啓発用ポケットパンフレット】 配置数:約70,000冊 場所:区役所、地下街など (3)自発的な砂まき活動の推進 人通りの多い道路(場所)で営業しているコンビニや商店街等に砂まきを行ってもらうことで、市民の砂まき活動の啓発につながるから協力を依頼 【協力企業】 コンビニ:743店舗、商店街:29商店街、銀行:127店舗、信金:58店舗	
事業内容	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	(1)企業名入り砂箱の設置 事業内容:歩行者用砂箱の設置強化のため、民間協力による砂箱を設置 設置数:122基(新規は13基) (2)砂まき活動の実施 事業内容:市民や庁内部局に対して砂まきの協力を呼びかける。また、公共施設などに砂入りペットボトルを配置 【砂入りペットボトル】 配置数:約20,000本 場所:区役所、区土木センターなど 【啓発用ポケットパンフレット】 配置数:約110,000冊 場所:区役所、地下街など (3)自発的な砂まき活動の推進 人通りの多い道路(場所)で営業しているコンビニや商店街等に砂まきを行ってもらうことで、市民の砂まき活動の啓発につながるから協力を依頼 【協力企業】 コンビニ:719店舗、商店街:45商店街、銀行:125店舗、信金:73店舗		(1)企業名入り砂箱の設置 事業内容:歩行者用砂箱の設置強化のため、民間協力による砂箱を設置 設置数:129基(新規は7基) (2)砂まき活動の実施 事業内容:市民や庁内部局に対して砂まきの協力を呼びかける。また、公共施設などに砂入りペットボトルを配置 【砂入りペットボトル】 配置数:約20,000本 場所:区役所、区土木センターなど 【啓発用ポケットパンフレット】 配置数:約75,000冊 場所:区役所、北海道さっぽろ観光案内所(JR駅)など (3)自発的な砂まき活動の推進 人通りの多い道路(場所)で営業しているコンビニや商店街等に砂まきを行ってもらうことで、市民の砂まき活動の啓発につながるから協力を依頼 【協力企業】 コンビニ:735店舗、商店街:43商店街、銀行:119店舗、信金:74店舗	
事業内容	(1)企業名入り砂箱の設置 事業内容:歩行者用砂箱の設置強化のため、民間協力による砂箱を設置 設置数:122基(新規は13基) (2)砂まき活動の実施 事業内容:市民や庁内部局に対して砂まきの協力を呼びかける。また、公共施設などに砂入りペットボトルを配置 【砂入りペットボトル】 配置数:約20,000本 場所:区役所、区土木センターなど 【啓発用ポケットパンフレット】 配置数:約110,000冊 場所:区役所、地下街など (3)自発的な砂まき活動の推進 人通りの多い道路(場所)で営業しているコンビニや商店街等に砂まきを行ってもらうことで、市民の砂まき活動の啓発につながるから協力を依頼 【協力企業】 コンビニ:719店舗、商店街:45商店街、銀行:125店舗、信金:73店舗			

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	2-1-1		事業名	協働による冬期歩行環境の改善			
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
市民による砂まきの割合の増加	57%	56%	61%	57%	66%	70%	
企業名入り砂箱の設置数	79基	103基	109基	122基	129基	160基	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 「ウィンターライフ推進協議会(会長:北海道大学 高野准教授)」において「つるつる路面特派員」と「砂まきサポーター」を募集し、市内のつるつる路面情報を収集し、その情報をホームページおよび砂まきサポーターへ発信した。 参加者:64名</p> <p>■企業等との連携・協働 企業名入り砂箱の寄贈数:7基(累計129基) 協力店舗・商店街数:971店舗 地域住民自らが滑り止め材を散布等(地域と創る冬みち事業):181町内会</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 人通りの多い地下鉄・JR駅周辺の交差点を中心に砂箱を600基以上設置するとともに、持ち運びに便利な砂入りボトルを公共施設(区役所など)に約20,000本配置した。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>平成22年度の市内全域の転倒による緊急搬送件数は787件で、平成21年度と比べ115人(約12%)増加した。 原因については解析中であるが、特に12月は日中プラス気温になることが多く、融けた雪が夜に凍結し、全体的に滑りやすい路面状況の発生が多かったとが原因の一つと考えられる。 救急搬送件数は気象に大きく影響を受けることから、効果の把握は難しいが、各種の啓発活動や砂まきの取組が行われていることが転倒事故の抑制に結びついていると考えられる。</p> <p>【累計降雪量】 ・平年:630cm ・H21年度:485cm ・H22年度:490cm</p>			<p>冬期の歩行環境の改善は、市民要望も高く重要な課題の一つとなっている。しかし、つるつる路面は瞬時に広範囲に発生するため、行政だけの取り組みでは対応ができず、市民や企業による砂まきの協力がなにより必要となっている。 また、現状の砂箱や砂入りペットボトルが必ずしも利用しやすいものとなっていないという意見がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>冬期の歩行環境の改善には、市民・企業・行政の三者が一体となって取り組むことが必要である。このため、市民・企業へのPRを強化するとともに、ウィンターライフ推進協議会などの民間組織とのさらなる連携、砂箱の改良などについて取り組むことを検討する。</p>							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		2-1-1			事業名	協働による冬期歩行環境の改善				
事業費の推移										
項目				19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費			—	—	—	—	—		
	財源内訳	国・道	支出金							
		市	債							
		その他の	他							
予算	事業費			2,300	2,300	0	0	4,600		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他の	他	0	0	0	0	0		
実績	事業費			2,460	0	0	0	2,460		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他の	他	0	0	0	0	0		
事業費の進捗率				(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					—	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度]										